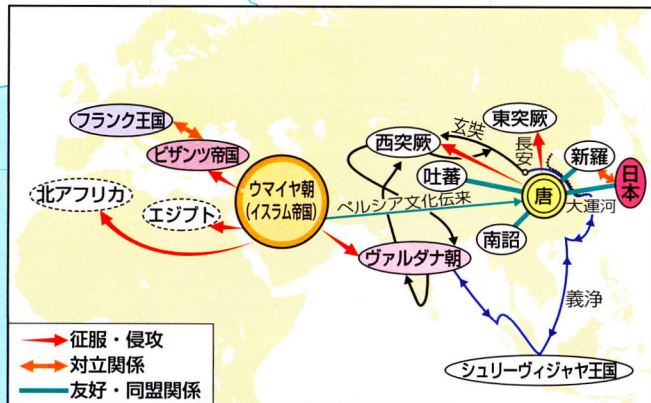




● 7世紀の概観



- ① 7世紀の東アジアでは隋唐が繁栄
- ② 西アジアにはイスラム帝国が成立
- ③ ヨーロッパではビザンツ帝国が軍管区制(テマ制)によりイスラム教徒の侵入に対抗

世紀	東ゴート王国	ビザンツ帝国	ウマイヤ朝	シユリーヴィジャヤ王国	北魏	西魏	北周	梁	陳	隋	唐	新羅	百濟	高麗	飛鳥時代
6															
7	フランク王国	ロンバルド王国	ウマイヤ朝	シユリーヴィジャヤ王国											飛鳥時代
8															奈良時代

0 500 1000km

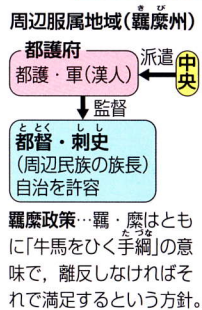


1 中国からインドに渡った求法僧

僧侶	旅行年代	当時のインド王朝	経路	著作
法顕 (東晋)	399~412	グプタ朝 チャンドラグプタ2世(位375~414)時代	(往)陸路 (復)海路	『法華記』
宋雲 (北魏)	518~521	グプタ朝末期	陸路	『宋雲家記』
玄奘 (北魏)	629~645	ヴァルダナ朝ハルシャ王(位606~647)時代	陸路	『大唐西域記』
義浄 (北魏)	671~695	分裂時代	海路	『南海寄帰内法伝』

2 唐代六都護府

都護府	治所(設置年)	管轄地域
安東	平壤(668)→遼東(676)	朝鮮・中国東北部
安北	鬱督軍山(663)→天徳軍(670)(受降城)	外モンゴル
单于	雲中(663)	内モンゴル
北庭	庭州(702)	天山北路
安西	西州(640)→龜茲(658)	天山南路・西域
安南	交州(679)	南海諸国



西遊記の世界 — 玄奘の旅 —



孫悟空・猪八戒・沙悟浄を従えた三蔵法師が、経典を求めて幾多の困難を乗り越え天竺(インド)へ旅する物語『西遊記』は、玄奘の17年に及ぶ旅行が下敷きとなり、16世紀後半に小説として完成した。『西遊記』では、金角・銀角大王、鉄扇公主になどの妖怪が一行の行く手を阻んだが、実際は氷河や焦熱などの難所であった。

📍 『西遊記』の大雁塔 ハルシャ王の厚遇を得てナーランダー僧院で学び、645年長安に帰着した玄奘は、持ち帰った膨大な経典を大雁塔に保管し、翻訳作業にあたった。高さ約64m

📍 玄奘 (三蔵法師) (602~664)

📍 孫悟空

📍 猪八戒

📍 沙悟浄